

2025年3月期 第2四半期 決算説明資料



クオールホールディングス株式会社

2024年11月6日

東証プライム：証券コード 3034

The Prime Market of the Tokyo Stock Exchange
3034



第一三共エスファの連結子会社化によって医薬品製造販売事業の規模が拡大したことに伴って、2025年3月期第1四半期より報告セグメントを変更

<変更の主なポイント>

- ① 事業活動の実態をより適切に表すため、**セグメント名称を変更**
- ② 情報開示を拡充することを目的として、「**製薬事業**」を新設
(「医療関連事業」に従来区分していた医薬品製造販売事業を「製薬事業」に移管)

旧報告セグメント

保険薬局事業

医療関連事業

新報告セグメント

薬局事業

・保険薬局の経営

BPO事業

・CSO事業 ※CSO:Contract Sales Organization の略
・CRO事業 ※CRO:Contract Research Organization の略
・医療系人材の紹介・派遣
・医療系出版

製薬事業

・医薬品製造販売の運営

※BPO:Business Process Outsourcing の略

I

決算概要

【増収増益】過去最高の売上と営業利益/経常利益

連結業績

- ・ 第一三共エスファ株式保有割合51%のため、中間純利益は増益であるものの、親会社株主に帰属する中間純利益は減益
- ・ 一過性の特別損失を計上

薬局事業

- ・ 増収減益
- ・ 前期M&Aや新規出店、在宅/施設調剤の推進等により、受付回数増加
- ・ 6月に調剤報酬改定により技術料単価が上昇
- ・ 仕入れや人件費等の運営コストが増加

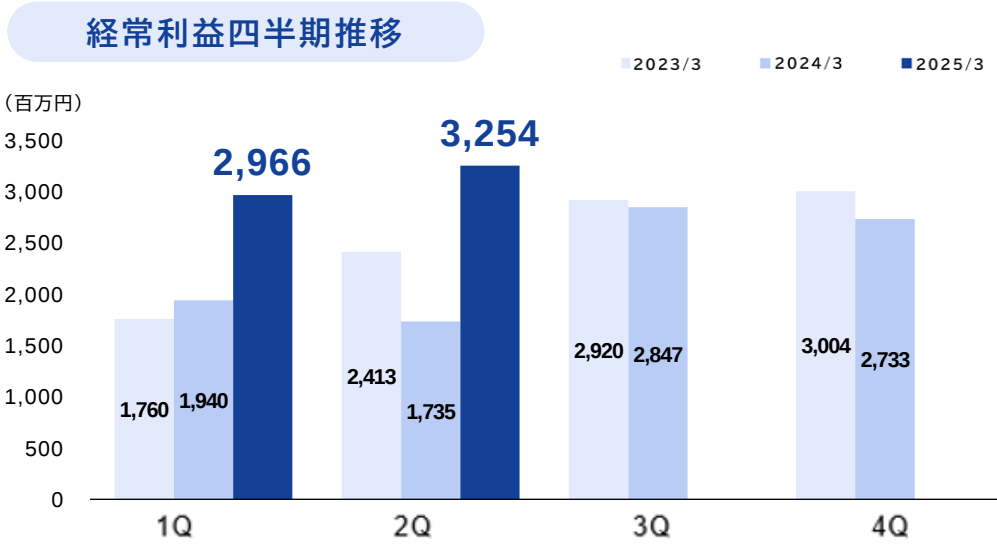
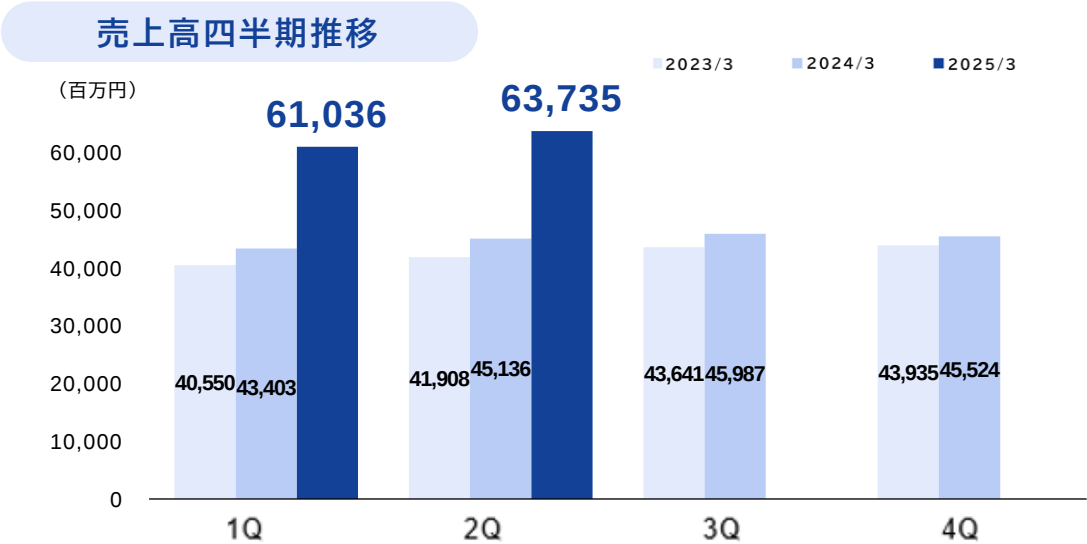
BPO事業

- ・ 増収増益
- ・ 主力事業であるCSO事業、紹介派遣事業の規模が拡大
- ・ 営業業務フローの分業化等の取組みで、薬剤師紹介派遣の成約数が特に増加

製薬事業

- ・ 計画超過
- ・ 第一三共エスファが2025年3月期第1四半期より連結子会社化(株式保有割合51%)
- ・ 供給状況が安定しているAG製品を主力にラインナップ

(単位:百万円)	2023年3月期 第2四半期 実績	2024年3月期 第2四半期 実績	2025年3月期 第2四半期 実績	増減額	増減率(%)
売上高	82,459	88,540	124,771	36,231	40.9%
営業利益	4,022	3,559	6,096	2,537	71.3%
経常利益	4,174	3,675	6,220	2,544	69.2%
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,366	1,888	1,211	△676	△35.8%
1株当たり 中間純利益(円)	64.11	50.80	32.43	△18.37	△36.2%



(単位:百万円)

	2025年3月期 第2四半期 計画	2025年3月期 第2四半期 実績	達成率	2025年3月期 通期 計画	進捗率
売上高	124,000	124,771	100.6%	270,000	46.2%
営業利益	5,400	6,096	112.9%	15,000	40.6%
経常利益	5,500	6,220	113.1%	15,200	40.9%
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,000	1,211	60.6%	5,000	24.2%
1株当たり 中間純利益(円)	53.57	32.43	60.5%	133.79	24.2%

※11月1日に業績予想の修正を公表

連結損益計算書



(単位：百万円)

	2024年3月期 第2四半期 実績	2025年3月期 第2四半期 実績	増減	増減率(%)
売上高	88,540	124,771	36,231	40.9%
売上原価	77,508	105,722	28,213	36.4%
売上総利益	11,031	19,049	8,017	72.7%
販管費	7,472	12,953	5,480	73.3%
営業利益	3,559	6,096	2,537	71.3%
利益率	4.0%	4.9%	—	—
経常利益	3,675	6,220	2,544	69.2%
利益率	4.2%	5.0%	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,888	1,211	△676	△35.8%
利益率	2.1%	1.0%	—	—

連結貸借対照表



(単位: 百万円)	2024.3.31	2024.9.30	増減
流動資産	52,690	54,399	1,709
現金及び預金	27,282	21,843	△5,439
固定資産	65,089	82,887	17,798
有形固定資産	16,281	16,791	510
無形固定資産	33,136	55,663	22,526
投資その他の資産	15,670	10,431	△5,238
資産合計	117,779	137,286	19,507
流動負債	38,823	55,496	16,673
固定負債	26,118	23,832	△2,286
負債合計	64,941	79,328	14,387
有利子負債	31,882	27,416	△4,466
純資産	52,837	57,957	5,120
自己資本	52,789	53,892	1,102
負債純資産合計	117,779	137,286	19,507

(単位: 百万円)	
流動資産	+ 1,709
受取手形、売掛金及び契約資産	+ 5,136
現金及び預金	△5,439
固定資産	+ 17,798
営業権	+ 12,950
のれん	+ 9,413
関係会社株式	△7,714
流動負債	+ 16,673
買掛金	+ 5,720
返金負債	+ 6,694
固定負債	△ 2,286
長期借入金	△3,907
純資産	+ 5,120
非支配株主持分	+ 4,017
利益剰余金	+ 646

キャッシュフロー計算書



(単位:百万円)

	2024年3月期 第2四半期 実績	2025年3月期 第2四半期 実績
営業活動による キャッシュ・フロー	6,391	477
投資活動による キャッシュ・フロー	△9,905	265
フリーC/F	△ 3,513	742
財務活動による キャッシュ・フロー	2,170	△6,196
うち配当金の支払額	△ 640	△1,359
現金・現金同等物の 増減額	△ 1,343	△5,453
現金・現金同等物の 期首残高	18,596	26,944
現金・現金同等物の 期末残高	17,253	21,490

(単位:百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	△5,913
税金等調整前当期純利益	+ 1,389
返金負債の増減額	△ 1,182
売上債権の増減額	△ 2,482
仕入債務の増減額	△ 3,250
投資活動によるキャッシュ・フロー	+10,170
関係会社株式の取得による支出	+ 7,500
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による収入	+ 3,972
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出	△1,609
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,366
短期借入金の純増減額	△ 7,587

セグメント概況



(単位: 百万円)	2024年3月期 第2四半期 実績	2025年3月期 第2四半期 実績	前年同期比 増減率
薬局事業売上高	80,966	84,080	3.8%
セグメント利益	4,714	4,232	△10.2%
利益率(%)	5.8%	5.0%	
BPO事業売上高	6,675	6,755	1.2%
セグメント利益	801	928	15.9%
利益率(%)	12.0%	13.7%	
製薬事業売上高	897	33,936	—
セグメント利益	△142	2,742	—
利益率(%)	△15.9%	8.1%	

※2025年3月期第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを変更しており、2024年3月期第2四半期のセグメント情報は、変更後の区分により作成したものを記載しております。なお、2024年3月期第2四半期のセグメント情報には、2025年3月期第1四半期より連結子会社化している第一三共エスファ株式会社の数値は含まれておりません。

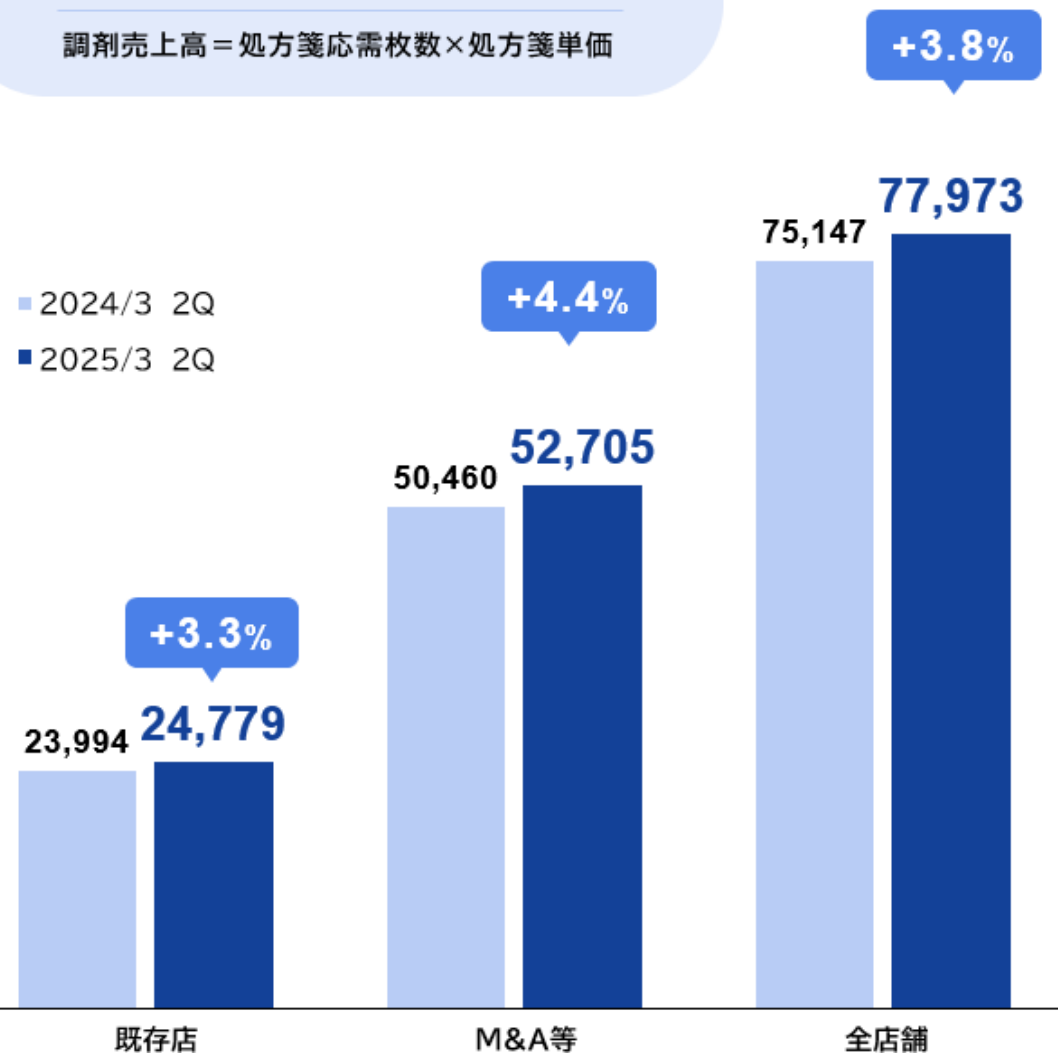
II

薬局事業について

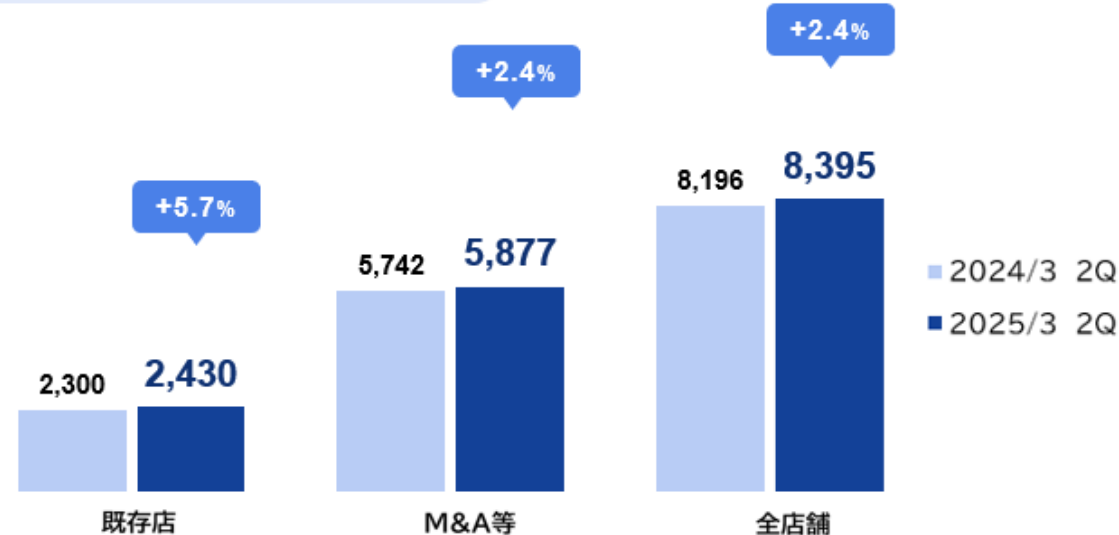


調剤売上高(百万円)

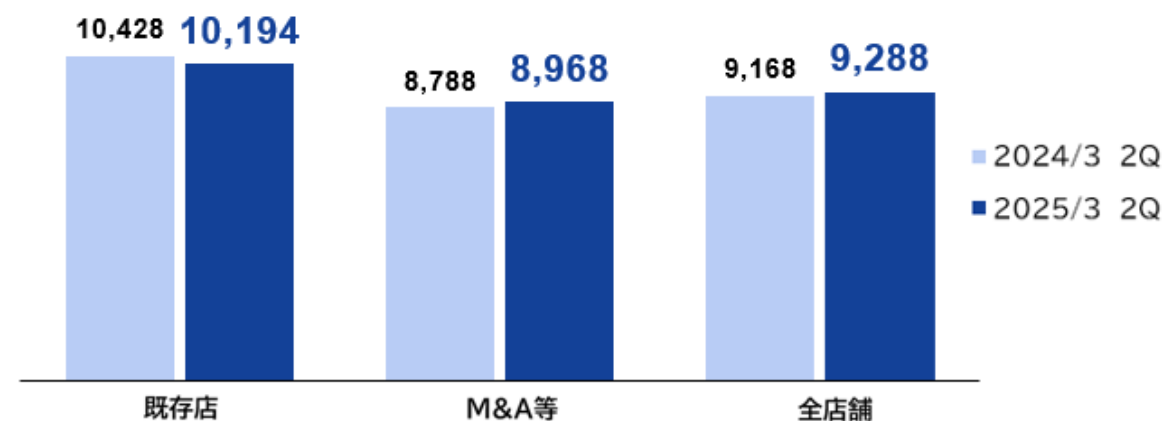
調剤売上高 = 処方箋応需枚数 × 処方箋単価



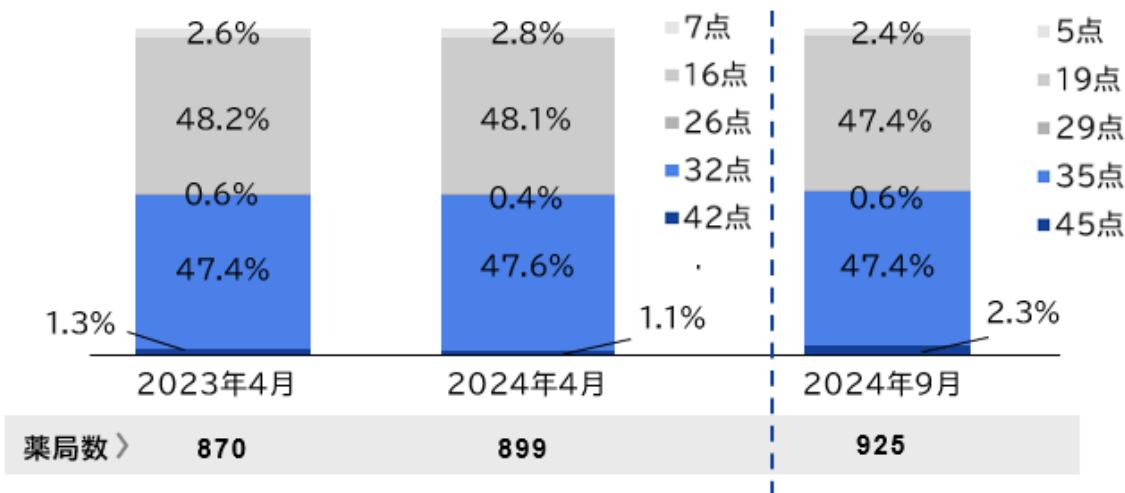
処方箋応需枚数(千枚)



処方箋単価(円)

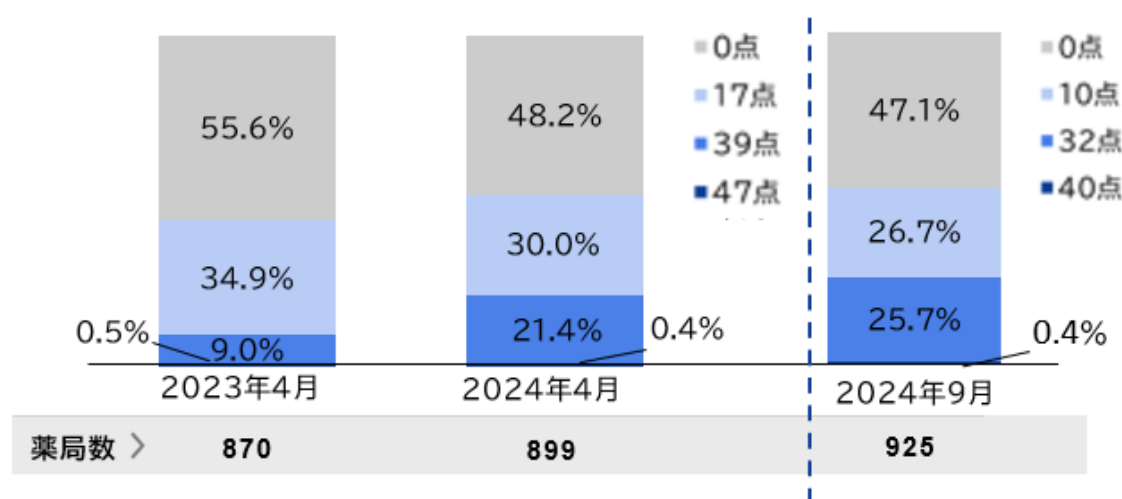


調剤基本料 店舗割合

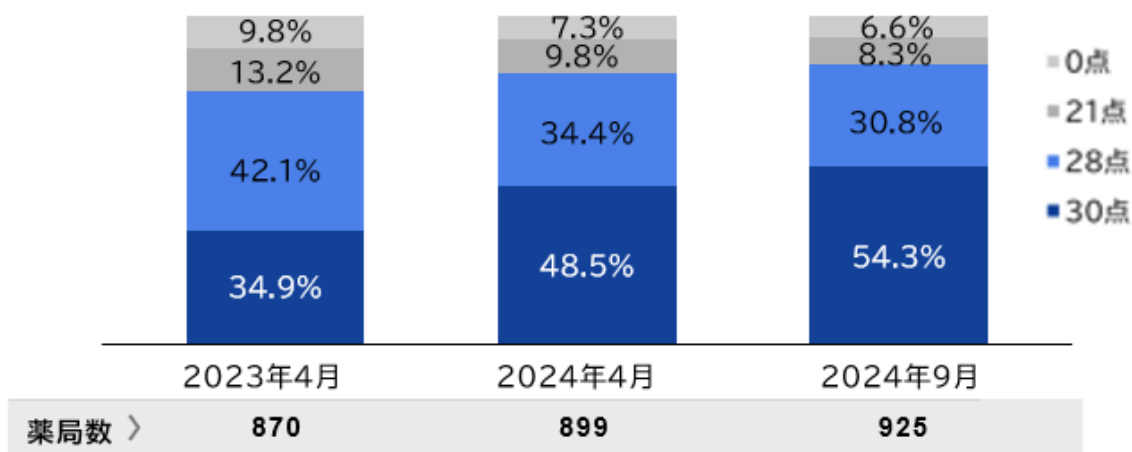


地域支援体制加算 店舗割合

(連結ベース)



GE医薬品調剤体制加算 店舗割合



GE変更率(数量ベース)

87.7%
(2024年9月)

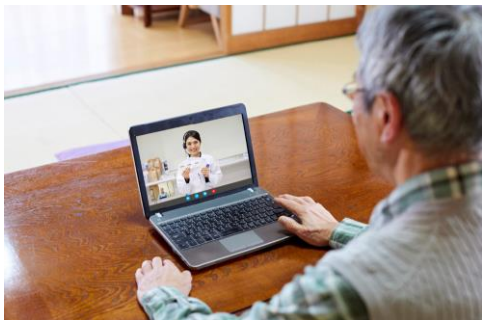
クオールどこでも薬局 の誕生



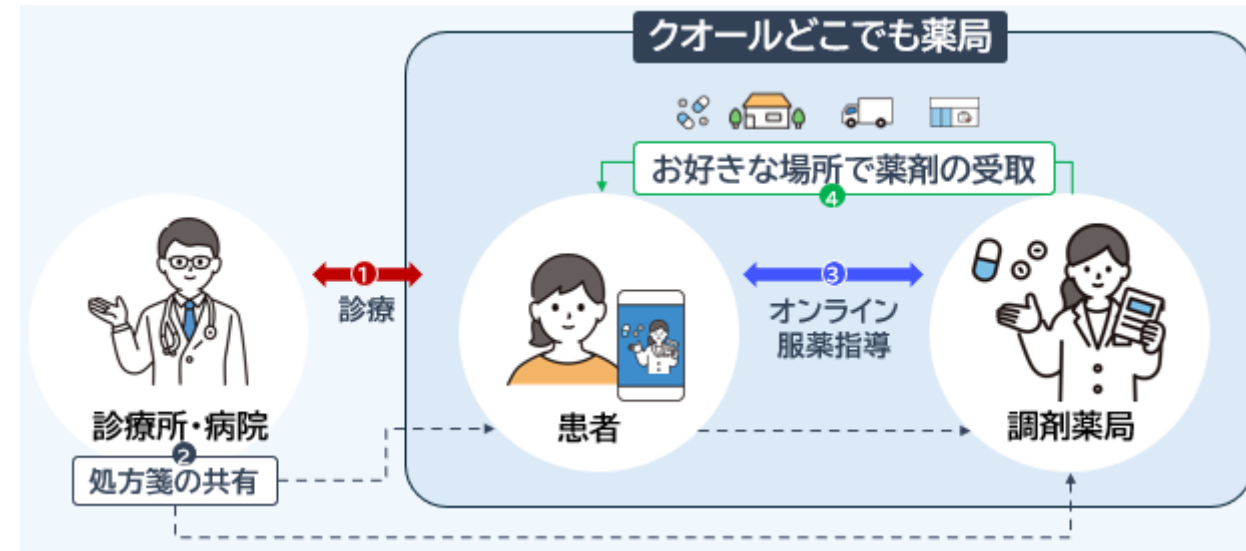
薬局事業



通信事業

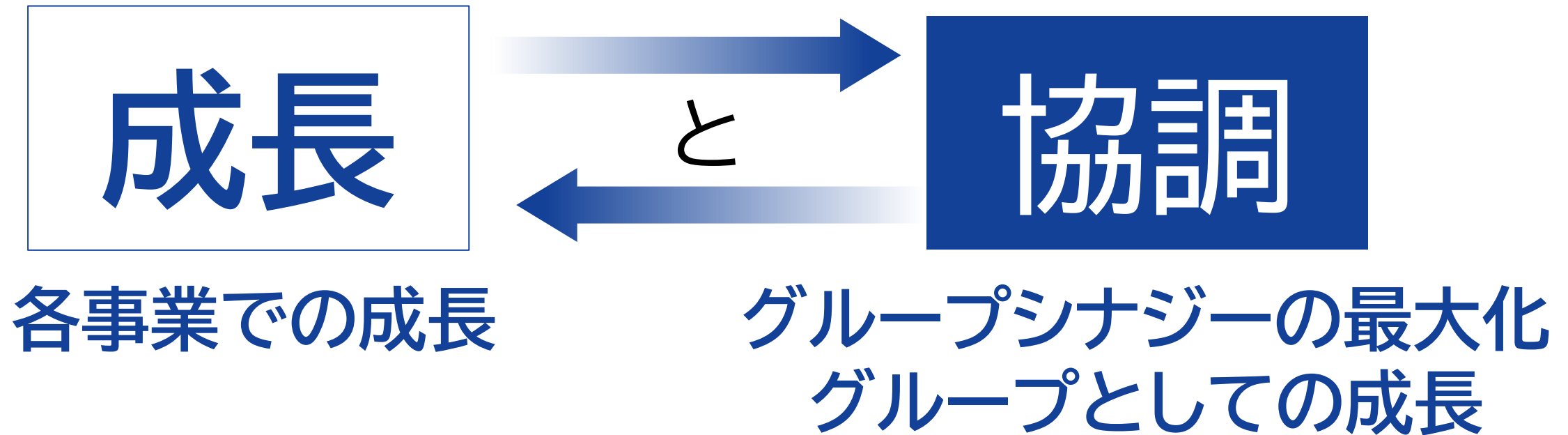


オンライン服薬指導スキーム図



Ⅲ

成長戦略



基本方針:「協調」によって実現力のある体制を整備

実現力の高い体制

グループ内

部門間 

会社間 

セグメント間 



グループ外

卸

メーカー

パートナー
企業

医療機関

etc.

協調

人財交流をはじめ
グループ内外ともに連携強化



中期目標達成にむけた
実現力の高い体制を整備

クオールグループ 3か年業績目標



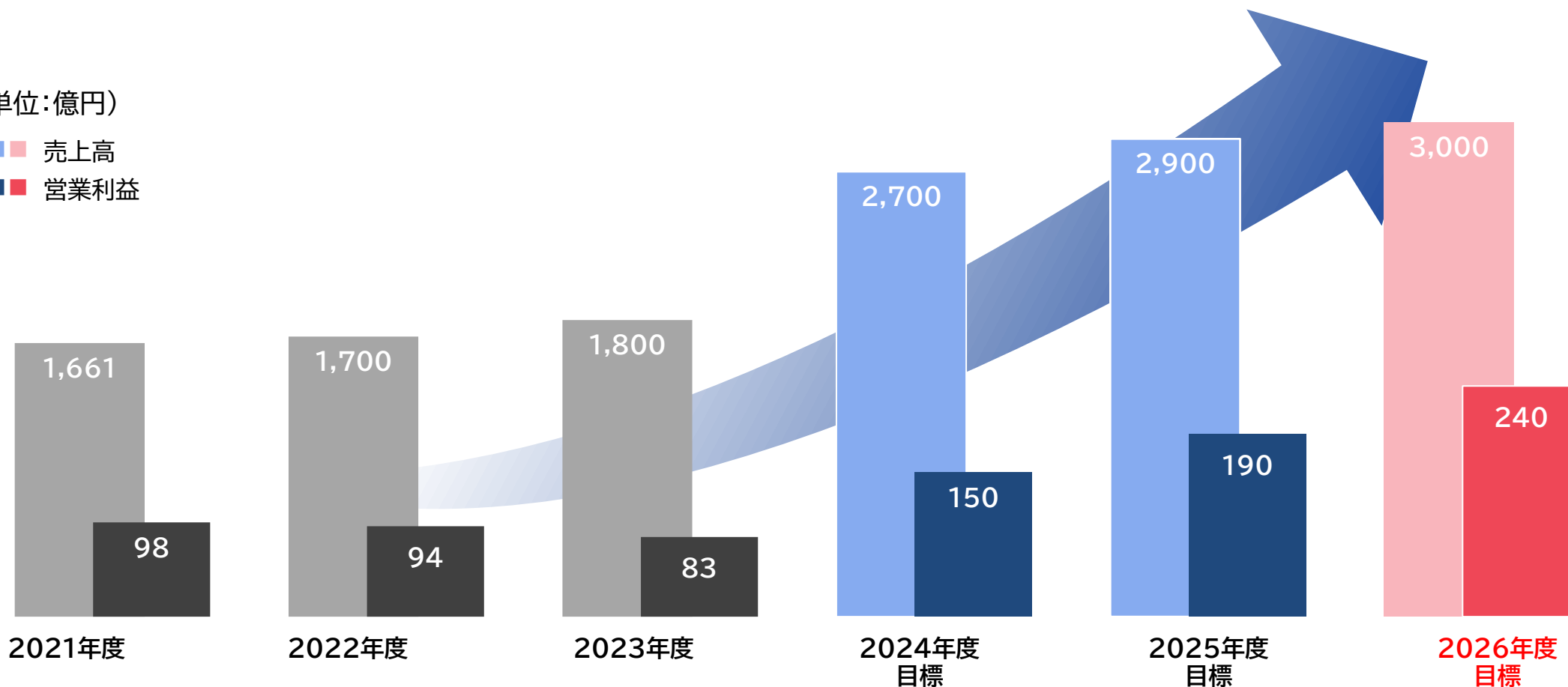
2026年度

売上高 3000億円

営業利益 240億円

(単位:億円)

■ ■ ■ 売上高
■ ■ ■ 営業利益



3つの成長戦略の数値目標を設定

薬局事業	質の向上	売上高 年平均成長率	利益性改善
		コロナ禍以前の成長率へ回復	技術料とコストのバランスを目標に設定
		+4%以上	7%向上
BPO事業	規模拡大	オーガニックな成長	投資による規模拡大
		年平均成長率	23年度売上比(オーガニック成長含む)
		+10%	150%
製薬事業	更なる成長	営業利益目標	利益率
		(第一三共エスファ) 22年度の営業利益水準まで回復	(第一三共エスファ) 落ち込んだ利益率の回復
		120億円	12%以上

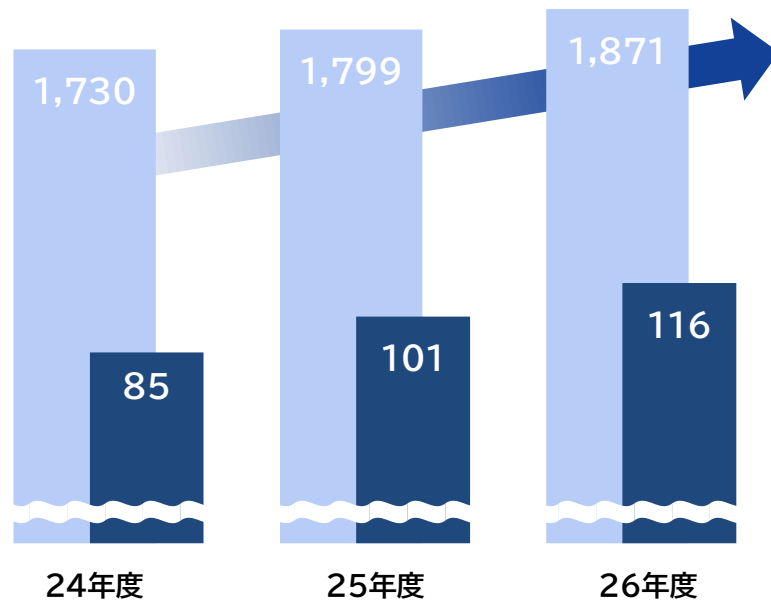
2026年度3か年目標達成のための成長戦略 各事業の数値目標

薬局事業

- 方針① 売上高CAGR +4%
方針② 生産性 +7%

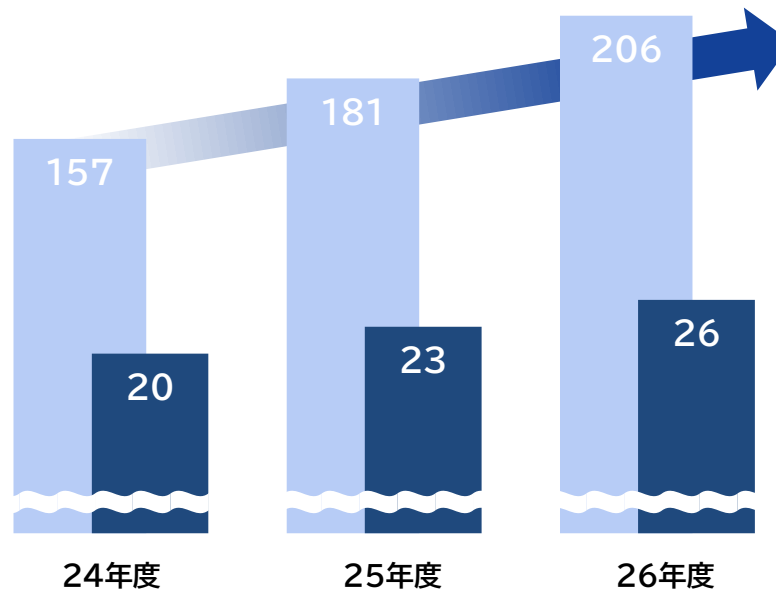
(億円)

■ 売上高
■ 営業利益



BPO事業

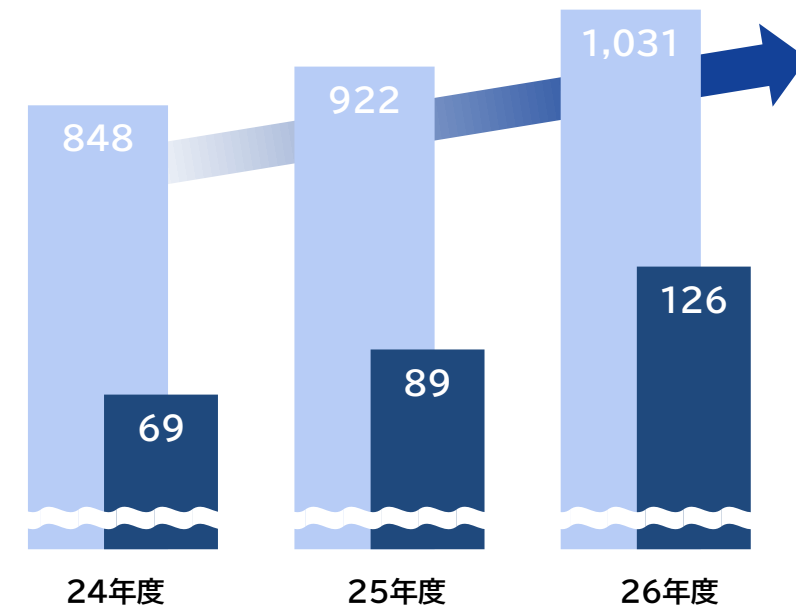
- 方針① 売上高CAGR +10%(オーガニック)
方針② 23年度比売上高 150%(①+M&A)



製薬事業

(第一三共エスファ)

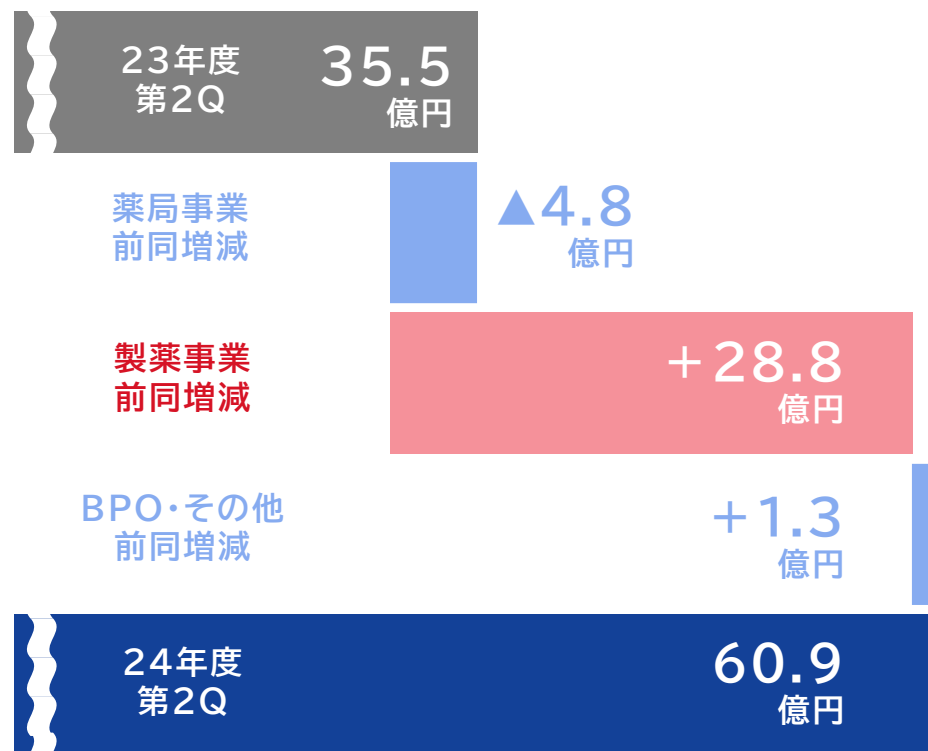
- 方針① 営業利益を22年度水準まで回復
方針② 落ち込んだ利益率の回復 12%



第2四半期営業利益前同増減要因と今後の成長戦略

■連結営業利益 前年同期変動要因グラフ

✓ホールディングスの増益は製薬事業が大きく寄与



クオールホールディングスの成長戦略

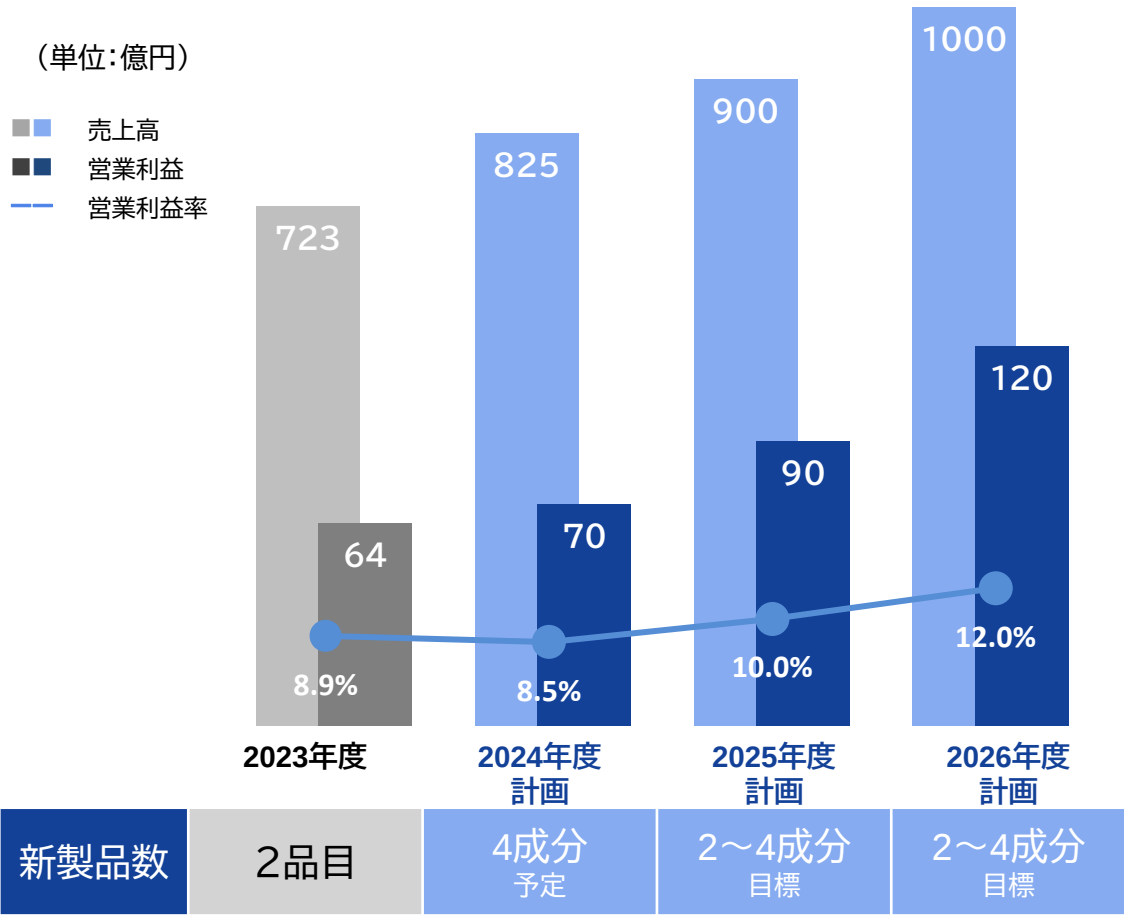
薬局事業	安定的な経営基盤へ再整備するため 大規模な利益構造改革を断行
製薬事業	グループの主要成長ドライバーとして 資源を優先投下する
BPO事業	規模拡大施策の継続

製薬事業セグメント 成長戦略数値目標

成長戦略:更なる成長



第一三共エスファ 業績目標推移



■3か年の具体的施策



売上拡大

- ✓ 毎年2～4成分のAG新製品発売を目標
- ✓ 営業力で既存AGの成長基調を維持する
- ✓ 新製品(新技術等でのリポジショニング・未承認薬の導入・共同開発など)



利益率向上
①原価

- ✓ 製品毎の価格政策見直し
- ✓ パートナー企業との交渉
- ✓ 卸政策・流通経費の見直し



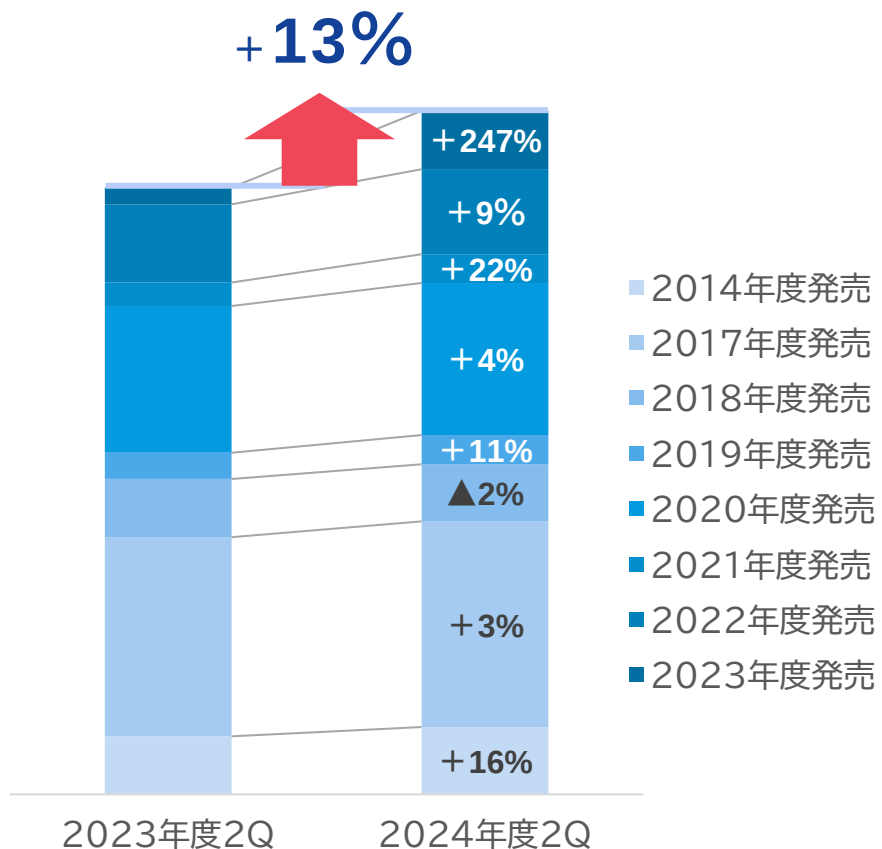
利益率向上
②経費

- ✓ 全ての経費のゼロベースでの見直し
- ✓ グループ全体で共通する経費の
ボリュームディスカウント交渉の実施

AG既存製品の売上※は堅調に伸長(前年同期比+13%)

AG既存製品 売上※推移

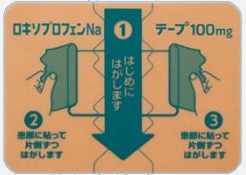
※医療機関等(病院、薬局)の売上(2024年度薬価ベース)



幅広いラインナップ

発売年度	一般名	主な使用用途
2014年度	レボフロキサシン	抗菌剤
2017年度	テルミサルタン テルミサルタン/アムロジピン テルミサルタン/ヒドロクロロチアジド オルメサルタン ロスバスタチン	降圧剤 降圧剤 降圧剤 降圧剤 高コレステロール血症治療剤
2018年度	レボフロキサシン点滴 シロドシン ゲフィチニブ	抗菌剤 排尿障害改善薬 抗がん剤
2019年度	ビカルタミド アナストロゾール タモキシフェン	抗がん剤 抗がん剤 抗がん剤
2020年度	メマンチン塩酸塩 エゼチミブ	アルツハイマー型認知症治療剤 高コレステロール血症治療剤
2021年度	ボルテゾミブ カルベジロール ピルシカイニド塩酸塩	抗がん剤 慢性心不全治療剤 不整脈治療剤
2022年度	アゾセミド フェブキソスタット	利尿剤 高尿酸血症治療剤
2023年度	ビソプロロールフマル酸塩	降圧剤

AG3成分7品目を2024年12月発売予定

先発品名	製品名	製品	薬効	GE承認会社数※
イグザレルト®錠・OD錠 10mg・15mg	リバーロキサバン錠・OD錠 10mg・15mg「バイエル」		選択的直接作用型 第Xa因子阻害剤 (経口抗凝固薬)	7社
ロキソニン®テープ 50mg・100mg	ロキソプロフェンNa テープ 50mg・100mg「DSEP」		経皮吸収型鎮痛 抗炎症剤	20社
プラケニル®錠 200mg	ヒドロキシクロロキン 硫酸塩錠 200mg「DSEP」		免疫調整剤	2社

IV

重点施策



グループ成長戦略の全体像



総合ヘルスケアカンパニー

研究
開発



製造



販売



病院
薬局



患者
さま



第一三共エスファ株式会社



藤永製薬株式会社



メディカルクオール株式会社

APO PLUS STATION



アポプラスキャリア



クオール薬局グループ
Quality Of Life

APO PLUS STATION

調剤

安定売上・安定収益

製薬

売上成長・高収益



BPO

高収益

新店・M&Aともに順調に店舗数増加

	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3 2Q累計
新店	20	17	18	16	15	21	16	12
M&A	14	50	39	18	15	48	17	26
売店	1	0	3	0	1	1	2	1

- 2024年7月に(株)行徳ファーマシー6店舗、(株)ボトムハート2店舗がグループ入り

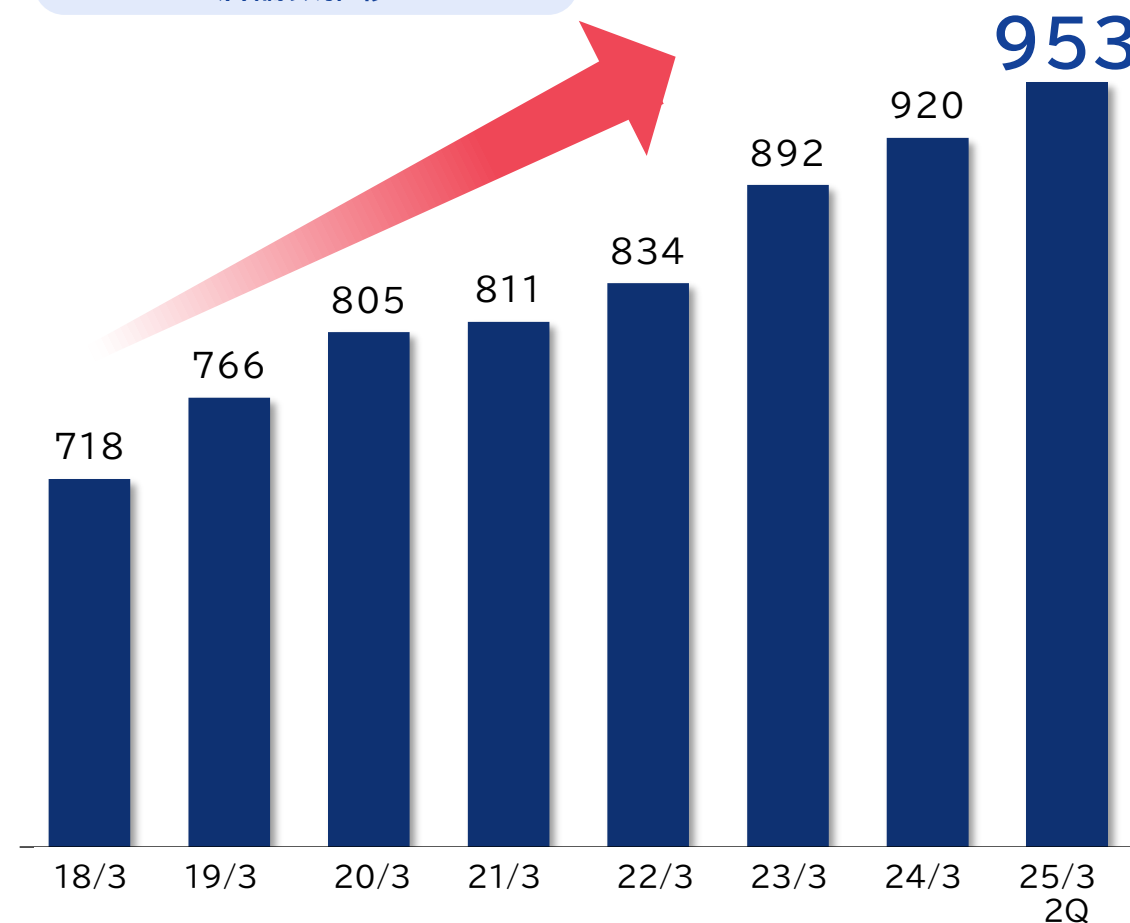


(クオール薬局秋田牛島西店)



(クオール薬局中河原店)

店舗数推移



1000店舗
目前

医療の質向上

- ・より良い医療を届ける→地域支援体制加算
- ・かかりつけの更なる推進
- ・医療DX



既存店受付回数 の増加

- ・在宅推進(専門店・個人在宅)
- ・クオールおくすり便
(LINE事前処方箋送信 & オンライン服薬指導)



調剤以外の 収益拡大

- ・企業とのコラボレーションによる健康事業の拡大
(サントリーウェルネス)
- ・スイッチOTC



AG
新製品



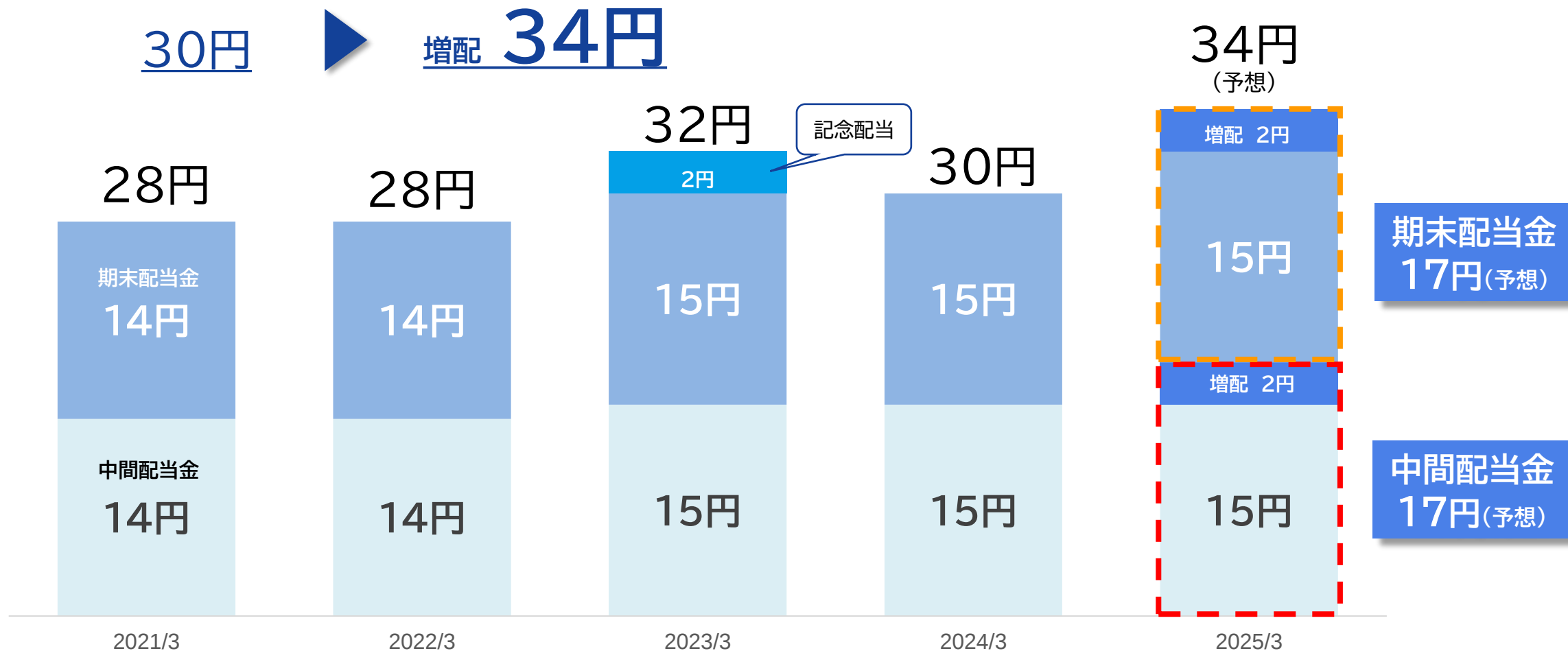
第一三共エスファ株式会社



工場を持たないファブレス経営



【増配】2025年3月期配当は前期比**4円増配**し、年間34円の配当を実施予定



【IRお問い合わせ】

クオールホールディングス株式会社 広報部

T E L : 03-6430-9060

F A X : 03-5405-9012

E-mail : ir@qol-net.co.jp

お問い合わせページ : <https://www.qolhd.co.jp/inquiry/>

【免責事項】

本資料および参考資料の内容につきましては、株主・投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料に将来に対する見通しが含まれている場合がありますが、実際の業績は様々な要素により、これら見通しと大きく異なる結果となりうることもあり、確約や保証を与えるものではありませんのでご了承ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する決定は、株主・投資家の皆さまのご判断において行われますようお願いいたします。



**わたしたちは、すべての人の、
クオリティ オブ ライフに向きあいます。
いつでも、どこでも、あなたに。**